

■対策事例 【渡良瀬川流域治水プロジェクト：国、栃木県、足利市】

『旗川下流域における流域治水の推進』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策
2. 被害対象を減少させる対策
3. 被害の軽減、早期・復旧・復興のための対策

令和元年東日本台風で、広範囲にわたり浸水被害が発生した旗川下流域において、国、栃木県及び足利市が連携し、ハード・ソフト対策の推進を行います。また、特定都市河川指定制度の活用検討も含め、関係者と連携し、流域における治水安全度向上を目指します。

流域治水対策の検討

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策】

- ・国土交通省：旗川改修（築堤、河道掘削）
- ・栃木県：尾名川、出流川改修（築堤、河道拡幅）
- ・足利市：河川からの逆流防止・水路改修等の検討

【被害対象を減少させる対策】

- ・足利市：氾濫域拡大防止に寄与する盛土の保全
- ・企業：止水板の設置、電気設備のかさ上げ
- ・国、足利市：浸水発生情報の伝達手法検討
- ・足利市：立地適正化計画による土地利用の誘導

【被害の軽減、早期・復旧・復興のための対策】

- ・ 尾名川水門等の操作状況を知らせる警報施設の整備等整備（国交省）と情報周知体制整備
- ・ 国: 緊急避難場所の基盤整備、堤防天端の拡幅
- ・ 足利市：自主防災会による防災訓練等の促進



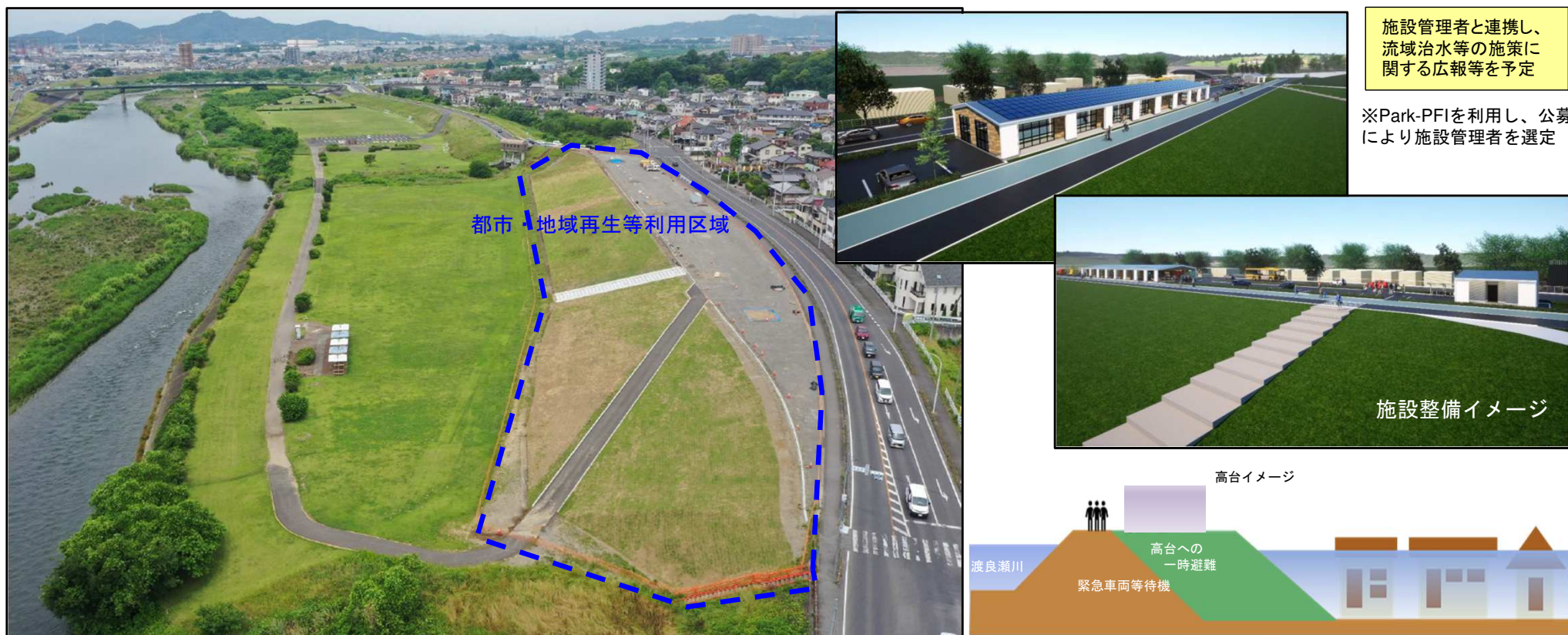
■ 対策事例【渡良瀬川流域治水プロジェクト:国、足利市】

『避難、水防活動に資する高台の整備』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 避難体制の強化

足利市では、「かわまちづくり」によって本町緑地に整備されたスペースを都市・地域再生等利用区域に指定し、公募により選定した民間事業者による施設整備・運営による「河川空間オープン化」を進めています。

洪水等の災害発生時には、住民や河川利用者の一時避難所や緊急車両の待機場所としての機能を担う他、施設管理者と連携して、通常時も流域治水等の施策に関する広報発信を行っていきます。



■ 対策事例【渡良瀬川流域治水プロジェクト:国】

『霞堤の保全、霞堤の効果（氾濫水に戻す）の啓発』

3. 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 洪水氾濫対策

霞堤は、洪水時に開口部から水が逆流して堤内地に湛水し下流に流れる洪水の流量を減少させるほか、上流で堤内地に氾濫した水を河川に戻す役割があります。地形や現状の土地利用等を考慮した霞堤の保全及び効果の啓発を現地へ看板を設置するなど行っています。

霞堤の効果（氾濫水に戻す）の啓発

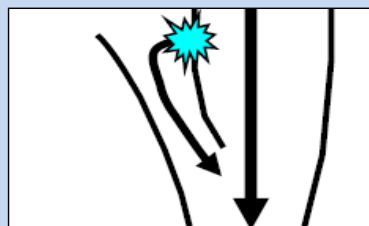
● 霞堤とは

霞堤は、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。戦国時代から用いられており、霞堤の区間は堤防が折り重なり、霞がたなびくように見えることからこのように呼ばれています。

一般に霞堤の機能には次の3つがあります。

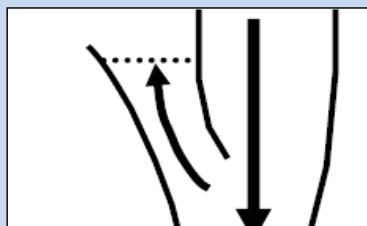
① 氾濫戻し

上流側で破堤した氾濫水を、本川に戻す機能です。特に、氾濫原の地形勾配が急で本川からの逆流が少ない、急流河川において効果的です



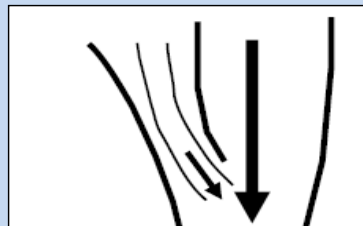
② 洪水調節

本川の洪水を逆流させて一時的に貯留する、いわゆる自然遊水地における洪水調節機能です。特に、氾濫原の地形勾配が緩く本川からの逆流が可能な、緩流河川において効果的です。



③ 内水及び支川排水

内水や支川の洪水を、本川に戻す機能です。本川からの逆流が少ない地域において、樋管がなくても内水排除ができます。



霞堤の事例（天竜川：長野県駒ヶ根市）



出典：今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 資料